

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	「平成 26 年度横浜市市民活動支援センター自主事業 みんなで作る！『市民活動百貨』（仮称）～若者の参加による活動体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり事業」	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人アクションポート横浜
	行政	横浜市市民局市民活動支援課
事業の目的	若者がレポーター体験を通し、社会課題を知り、地域への愛着を深められるようにする。多くの人が活動体験に参加できる情報発信・マッチングを行うデータベース及びweb サイトを作成する。団体間のネットワークを作り、市民活動を支える人材育成も行う。	
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発信の担い手となる若者レポーターを育成し、多世代参加でデータベースを作る ・ 体験活動データベースの作成：現場体験のパッケージ化により広くマッチングを実現 ・ 体験活動データベースによる情報発信：NPO の現場のリアルな声を伝え、社会的価値を高める ・ 受入団体を中心とした団体間ネットワークの提供とノウハウの発信 	
役割及び責任分担等	別紙のとおり	
実施期間	平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで	

記入日	平成 27 年 4 月 30 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体等名： 特定非営利活動法人 アクションポート横浜 ・ 記入責任者 氏名： 高城 芳之 連絡先： 045-662-4395
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署名： 横浜市市民局市民活動支援課 ・ 記入責任者 氏名： 課長 佐藤 千鶴 連絡先： 045-227-7915

別紙

事業項目	申請者の役割	交付決定者の役割
発信の担い手となる若者レポーターを育成し、多世代参加でデータベースを作る	<ul style="list-style-type: none"> レポーター募集の広報 レポーター養成講座の企画・運営 レポーターによる NPO の現場での情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> レポーター募集に当たって、交付決定者の広報媒体を活用した広報の協力 レポーター養成講座の開催に当たって必要な情報提供
体験活動データベースの作成：現場体験のパッケージ化により広くマッチングを実現	<ul style="list-style-type: none"> データベースの作成・運営 データベース掲載に向けた NPO への広報 体験活動のパッケージ化と掲載 現場体験活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> データベースの運営に当たって、交付決定者のネットワークを活用した NPO への広報の協力 データベース掲載の NPO の候補先に関する情報提供 現場体験活動の実施に当たっての協力
体験活動データベースによる情報発信：NPO の現場のリアルな声を伝え、社会的価値を高める	<ul style="list-style-type: none"> データベースによる情報発信 他のメディアとの連携・協力 	<ul style="list-style-type: none"> WEB サイトの認知度アップに向けた広報の協力（交付決定者の関係サイトとの連携やリンクの打診、調整等）
受入団体を中心とした団体間ネットワークの提供とノウハウの発信	<ul style="list-style-type: none"> 受入 NPO 同士の情報交換の場、ネットワークづくり 受け入れノウハウの蓄積と発信 	<ul style="list-style-type: none"> 受入 NPO 同士の情報共有の場に関する開催場所の調整等の協力
その他事業の実施に当たり、必要となること	<ul style="list-style-type: none"> 他の自主事業団体との連携・協力 申請者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 申請者として今後必要になる事業の検証 交付決定者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 他の自主事業団体との連携・協力についての調整及び協力 交付決定者として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 交付決定者として必要になる事業の検証 申請者との打ち合わせ等を通じた意見交換の実施

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	B	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	B	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	B

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	A	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	B	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	B	B

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	地元企業の若手社員×大学生の地域課題解決力を高め合うコミュニティづくり事業	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人エティック
	行政	横浜市市民局市民活動支援課
事業の目的	地元企業で働く若手社員が核となって、企業が地域課題解決の担い手としての一歩を踏み出す機会や、大学生が地域に目を向ける機会を創出する。	
事業の内容	<p>地元企業の若手社員がインターン生受け入れを機に、学生を受け入れる中で自社の地域での存在意義や会社のミッションに当事者意識を持ち、社外にネットワークを構築したり、地域貢献へのアクションが生まれるきっかけをつくる。</p> <p>また、組織が活性化し、地域社会とのつながりに目が向く地元企業が増えることで、若手社員自身や、地元企業の地域活動への参画を促し、地域課題解決の多様な担い手創出を目指す。</p>	
役割及び責任分担等	別紙のとおり	
実施期間	平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで	

記入日	平成 27 年 4 月 30 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 特定非営利活動法人エティック ・記入責任者 氏名： 田中多恵 連絡先： 03-5784-2115
	<ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 横浜市市民局市民活動支援課 ・記入責任者 氏名： 課長 佐藤 千鶴 連絡先： 045-227-7915

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	B	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	C	B
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	B	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	C	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	B	B

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	B	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	C	B
3	相手に任せきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	C	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	C	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	C	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	C	B
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	B	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	C	B

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 繰り返し話し合う機会をもつことで、当初は「地域」や「協働」に関する概念の認識に違いがあったが、最終的には、本事業の目指す状態像の認識をすり合わせる事ができた。
【今後改善が必要と思われること】 協働を開始する段階で、お互いの強みや役割分担等について十分に話し合う機会を持つことが必要と思われる。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 認識を共有化するために、概念を整理したペーパーを作成したことで、認識の食い違いや混乱が生じた時にはそのペーパーにお互い立ち戻って考える事ができた。
【今後改善が必要と思われること】 事業の進捗だけでなく、予算の執行状況についても随時情報共有をしていき、早目の対応をしていく。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
初年度は相互理解に時間がかかってしまった。 3か年で取り組む事業であるため、初年度のコミュニケーションを基盤として2年目3年目の事業効果が高まるよう、役割分担や情報共有をしっかりと行っていく。
自由記入欄

別紙

事業項目	申請者の役割	交付決定者の役割
事業実施にあたっての 広報	インターン受入企業の募集	インターン受入企業の募集についての 情報発信に関する協力
事業の実施	事業の企画及び実施	事業の実施にあたっての必要な情報 提供
その他事業の実施にあ たり必要となること	<ol style="list-style-type: none"> 1 自主事業団体との連携・協力 2 自主事業団体として必要になる 情報公開及び説明責任に関する 業務 3 自主事業団体として今後必要 になる事業の検証 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自主事業団体との連携・協力に ついての調整及び協力 2 交付決定者として必要になる情 報公開及び説明責任に関する業務 3 交付決定者として必要になる事 業の検証